

令和5年度 全国学力・学習状況調査 上富良野町の結果について

令和5年9月12日
上富良野町教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象学年 町内小学校第6学年、町内中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の期日 令和5年4月18日(火)

5 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

	上 富 良 野		北 海 道		全 国	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
小学校	3	83	938	38,648	18,991	1,039,445
中学校	1	72	559	34,256	10,287	1,075,582

II 調査の結果

(※今回の調査で測定できるのは「学力の特定的一部分」であり、子どもの学力の全てでないというおさえに立っています。)

1 児童生徒の学力の状況

(1) 小学校

教 科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国 語	66.0	67.2	全国平均をやや下回る
算 数	61.0	62.5	全国平均をやや下回る

(2) 中学校

教 科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国 語	69.0	69.8	全国平均をやや下回る
数 学	49.0	51.0	全国平均を下回る
英 語	44.0	45.6	全国平均を下回る

※上記の基準 「上回る」 +3以上 「やや上回る」 +1～+3
「ほぼ同様」 ±1
「下回る」 -3以下 「やや下回る」 -1～-3

小学校は、国語、算数ともに全国平均をやや下回りました。

国語では、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」に成果が見られるが、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」に課題が見られました。

算数では、「伴って変わる二つの数量について、表から変化の情報を読み取り、表の知りたい数を求める」に成果が見られましたが、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に、面積の大小を判断し、その理由を記述する」に課題が見られました。

中学校は、国語が全国平均をやや下回り、数学・英語では、全国平均を下回りました。

国語では、「事象や行為、心情を表す語句についての理解」で成果が見られましたが、「文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える」で課題が見られました。

数学では、「問題場面における考察の対象を明確に捉える」で成果が見られましたが、「空間における平面の決定条件」で課題が見られました。

英語では、「情報を正確に聞き取ることができる」で成果が見られましたが、「日常的な話題について考えを整理し、まとまりのある文章を書く」で課題が見られました。

2 児童生徒質問紙の傾向

※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

※  は全国平均より (+5) 以上  は全国平均より (-5) 以下を表しています。

(1) 家庭での生活・学習について

○基本的な生活習慣

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
朝食を毎日食べている	90.4	93.9	83.8	93.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	85.7	86.0	80.5	78.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている	92.9	90.5	94.3	91.3
家で、計画を立てて勉強している	82.1	70.7	56.9	55.0

○平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？

(学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分以下	全くしない
小学校	2.4	3.6	51.2	36.9	4.8	1.2
全 国	11.8	13.8	31.5	26.9	11.4	4.6
中学校	1.4	8.3	29.2	30.6	25.2	5.6
全 国	10.3	23.4	32.1	18.0	9.9	8.0

○平日、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか？(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

	2時間以上	1～2時間	30分～1時間	10分～30分	10分以下	全くしない
小学校	4.8	13.1	21.4	25.0	19.0	18.7
全 国	7.6	10.9	18.8	22.7	15.4	24.5
中学校	2.8	9.7	15.3	25.0	20.8	26.4
全 国	5.4	8.4	14.6	21.0	13.2	36.8

○学校の授業以外に平日、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っていますか？

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
小学校	3.6	1.2	11.9	20.2	31.2	32.1
全 国	2.9	3.9	11.1	23.2	32.4	26.4
中学校	0.0	2.8	5.6	11.1	40.3	40.3
全 国	2.1	2.9	8.4	17.8	34.1	34.3

小・中学生とも家庭における基本的な生活習慣（早ね・早おき・朝ごはん）が身に付いている。
「家で計画を立てて勉強している」割合は、小学生では全国よりも約１５％多く、中学生では、全国とほぼ同様の割合となっている。平日の勉強時間では、小・中学生ともに１時間～２時間が最も多く、３０分以上勉強している割合では、全国よりも多くなっている。
平日の読書時間については、小・中学生ともに「１０分～３０分未満」が最も割合となっていて、「全くしない」の割合では、小・中学生ともに全国よりも少なくなっている。
平日、勉強のためにタブレットなど ICT 機器を使う時間については、小・中学生ともに、ほぼ全国と同じような割合になっている。

（２）学校での生活・学習について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
自分には、よいところがある	88.1	83.5	87.5	80.0
将来の夢や目標を持っている	84.5	81.5	61.1	88.1
人が困っているときは、進んで助けている	91.7	91.6	93.0	88.1
友達関係に満足している	86.9	90.3	93.0	88.7
学校に行くのは楽しい	88.1	85.3	84.7	81.8
いじめは、どんな理由があってもいけない	98.8	96.9	100.0	95.3
人の役に立つ人間になりたい	94.1	95.1	98.6	94.6
国語の勉強は好き	65.5	61.5	70.8	61.4
国語の授業の内容はよく分かる	88.0	85.7	86.1	80.0
国語で学習した内容は、将来、社会に出た時に役に立つ	95.8	92.8	93.0	88.7
算数・数学の勉強は好き	55.7	61.4	40.3	56.7
算数・数学の授業の内容はよく分かる	77.4	81.2	52.7	73.3
算数・数学で学習した内容は将来、社会に出た時に役に立つ	94.0	93.3	87.5	75.8
英語の勉強は好き	82.2	70.3	41.6	51.9
英語の勉強は大切だ	97.3	91.5	96.2	88.0
学校の授業以外で英語を使う機会があった	34.5	46.5	22.3	30.0
将来、積極的に英語を使うような生活や仕事をしたい	49.1	52.5	83.3	87.5
授業で、課題に対し自ら考え・取り組んだ	84.6	78.8	89.2	79.2
授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した	61.9	63.7	77.8	52.1
話し合う活動を通じて、自分の考えを深め広げることができている	88.1	81.8	84.8	79.7
授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を週１回以上使用した	89.3	96.8	66.7	87.5
学校の授業以外で、勉強のため、普段１日あたり１時間以上、タブレットなどの ICT 機器を使っている	16.7	17.9	8.4	13.4
PC・タブレットなどの ICT 機器は勉強の役に立つ	97.6	95.1	98.6	93.3

「自分にはよいところがある」と認識する「自己肯定感」は、小学生・中学生ともに全国よりも上回った。コロナ禍３年間は、低くなっていたが、高まりがでてきた。「将来の夢や目標」は、小学生は、８０％を超え、全国と同じような傾向だが、中学生が、全国より２７％ほど下回った。
「友達関係に満足している」「学校に行くのは楽しい」では、小・中学生ともに高い割合となっていて、充実した学校生活を送っていることが推察でいる。
「いじめは、どんな理由があってもいけない」については、ほぼ全員の児童生徒で理解されていて、いじめに対する認識は深まっている。
更に、「人の役に立つ人間になりたい」という「自己有用感」についても、小・中学生ともに大変高くなっている。
PC・タブレット等の ICT 機器について、ほぼ全員が「勉強に役に立つ」と思っているが、学校尾授業や家庭学習での使用頻度は、全国に比べ、少ない。

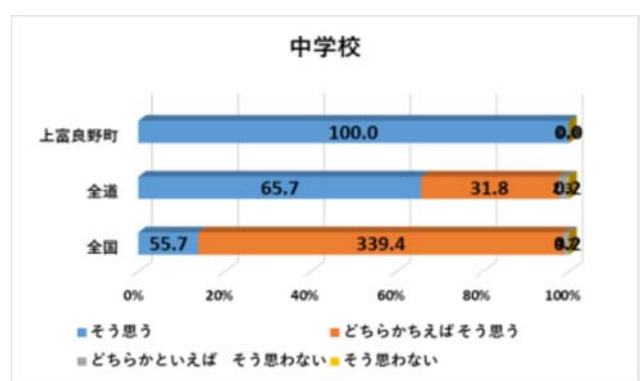
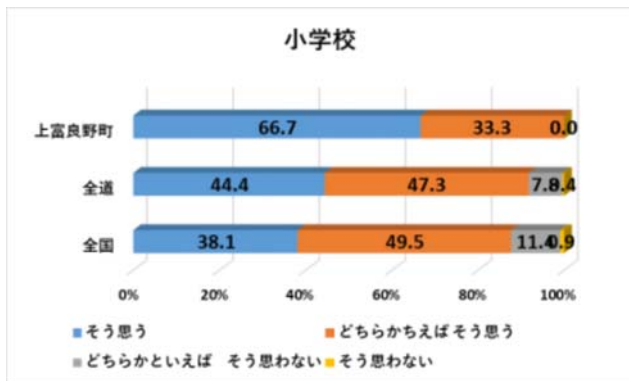
(3) 関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
地域行事に参加している	70.2	57.8	40.3	38.0
地域や社会をよくするために何かをしてみたい	80.9	76.8	68.0	63.9
外国の人と友達になったり、外国のことを知りたい	77.1	72.5	70.8	66.8
新聞を週1回以上は読んでいます	8.3	12.6	6.9	8.1
自分の家には101冊以上、本がある(雑誌・新聞・教科書以外)	25.0	28.9	20.8	28.9

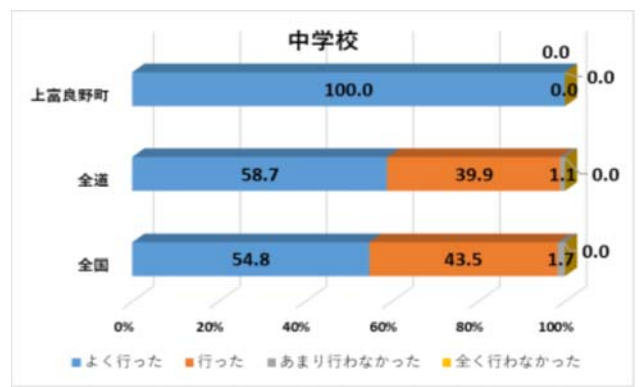
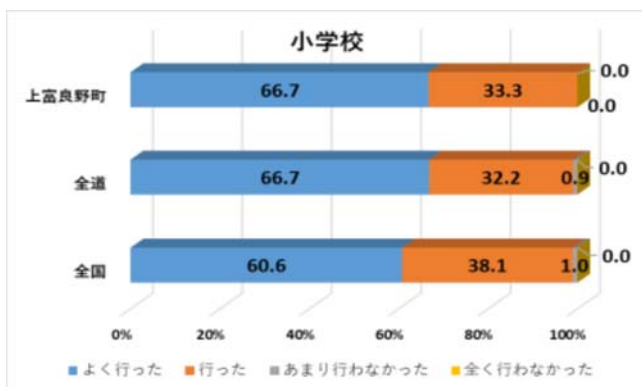
「地域行事への参加」は、小・中学生ともに、全国より高い割合となっており、「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」という思いも強く抱いている。
 また、地域内にとどまらず、異なった文化や習慣等をもつ外国の人と友達になったり、もと外国のことを知りたいと思う児童生徒が多い。
 自宅の蔵書数は、全道・全国とも101～200冊が一番多く、本町も同様の傾向である。
 「新聞を週1回以上読むこと」については、全国の傾向も高くはないが、本町では、中学生に比べ、小学生の割合が高くなっている。

3 学校質問紙の傾向

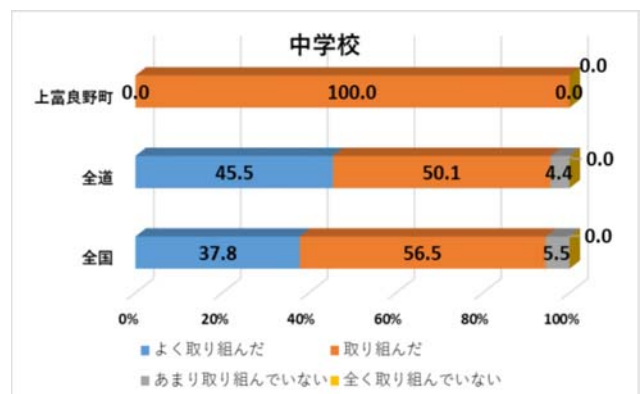
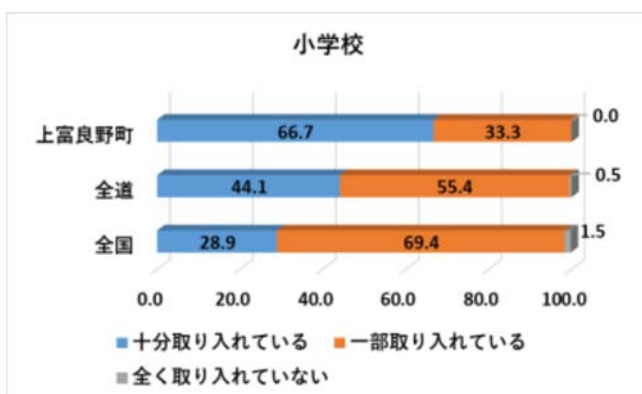
(1) 児童生徒は、授業中の私語は少なく、落ち着いていますか。



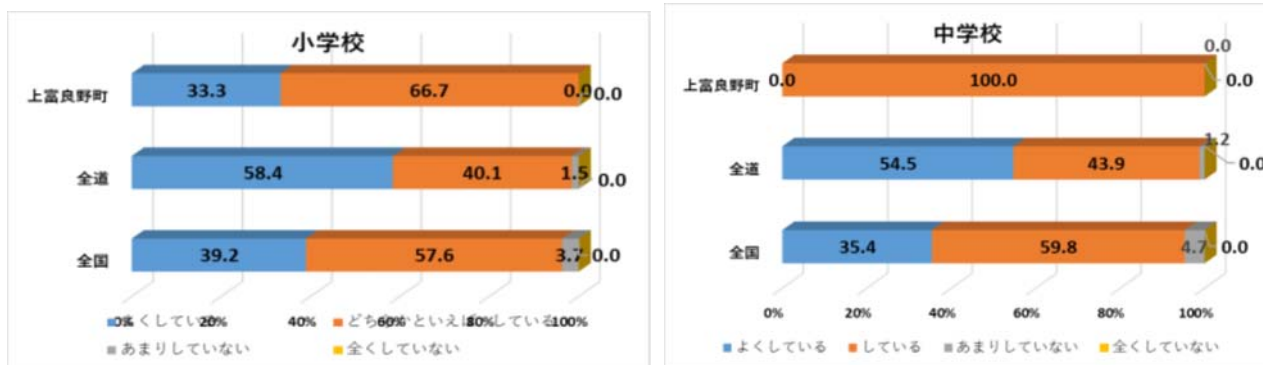
(2) 児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する（褒める）取組を行いましたか



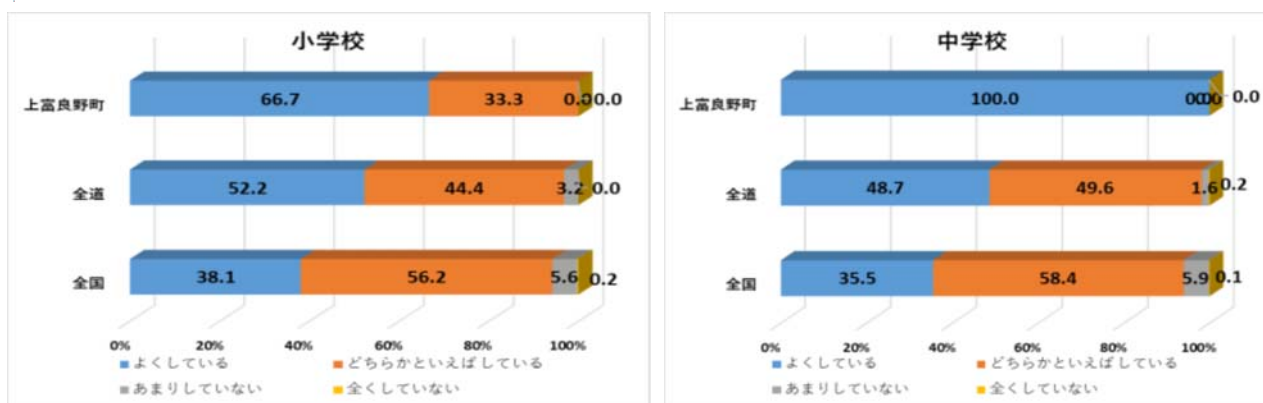
(3) ICT を活用した校務の効率化（業務の軽減）に取り組んでいますか



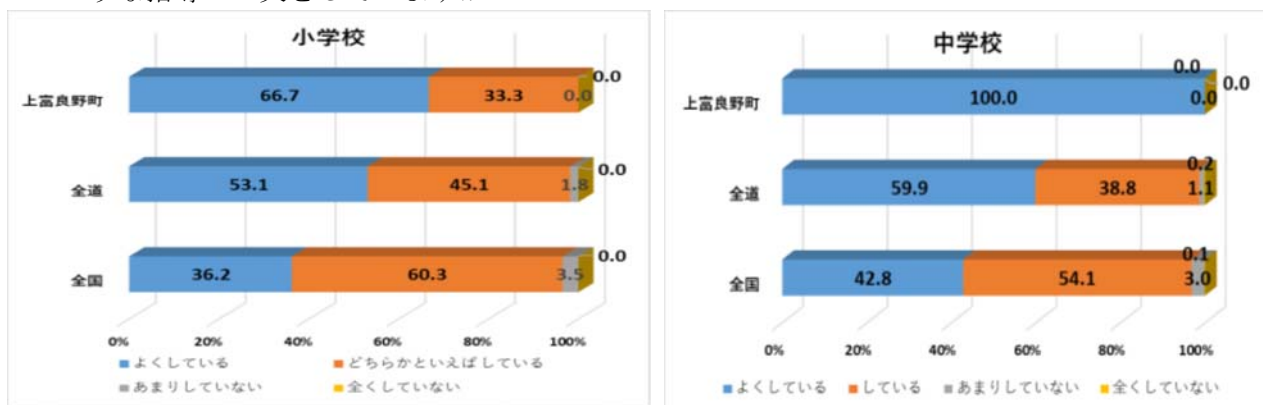
(4) 児童生徒・地域の実態をもとに、教育課程を編成・実施・評価・改善するPDCAサイクルを確立していますか



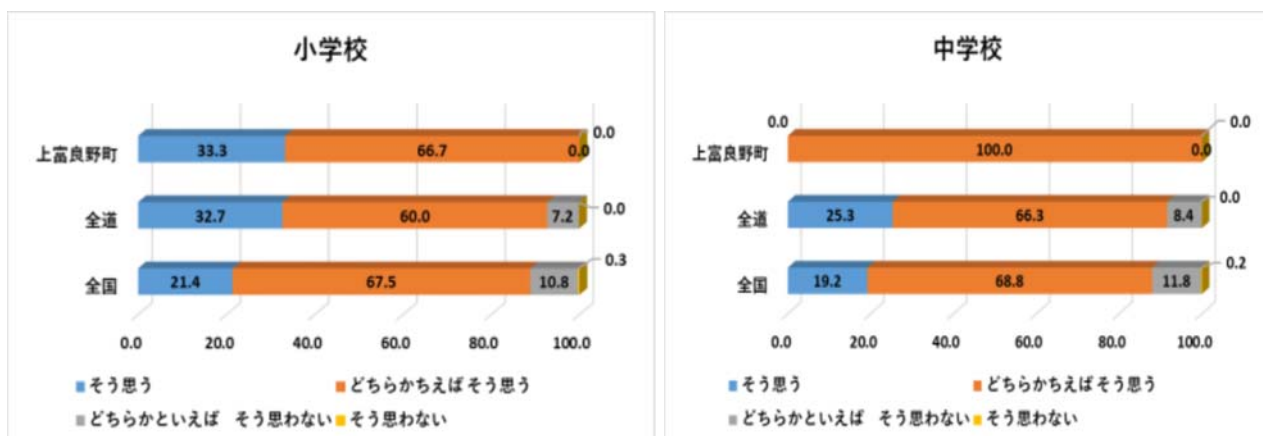
(5) 学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか。



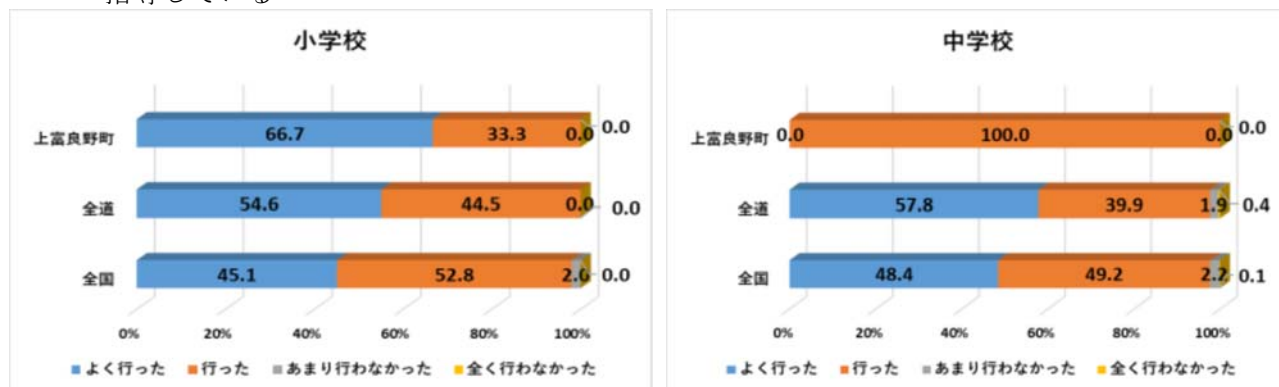
(6) 「特別の教科 道徳」において、児童生徒自ら自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



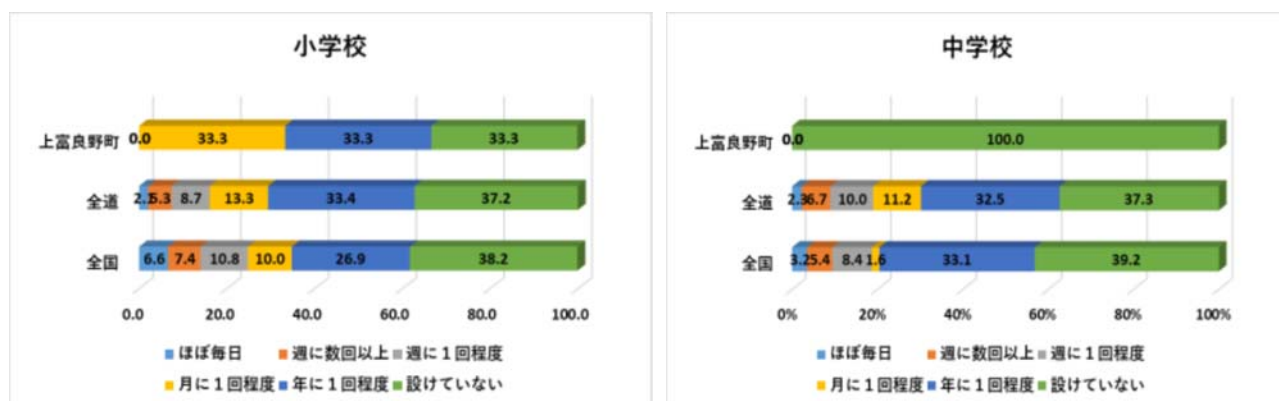
(7) 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組むことができている



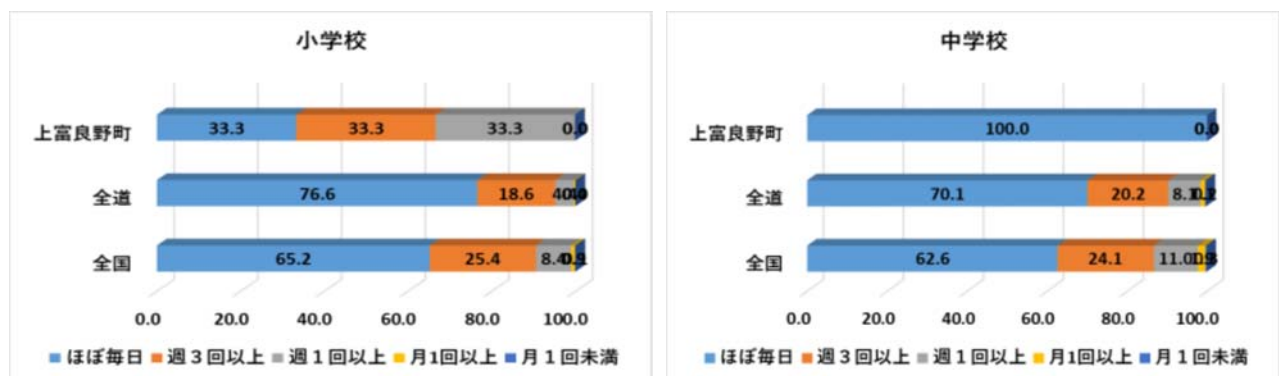
(8) 算数・数学の指導として、公式のきまり、計算の仕方等のわけを理解できるように工夫して指導している



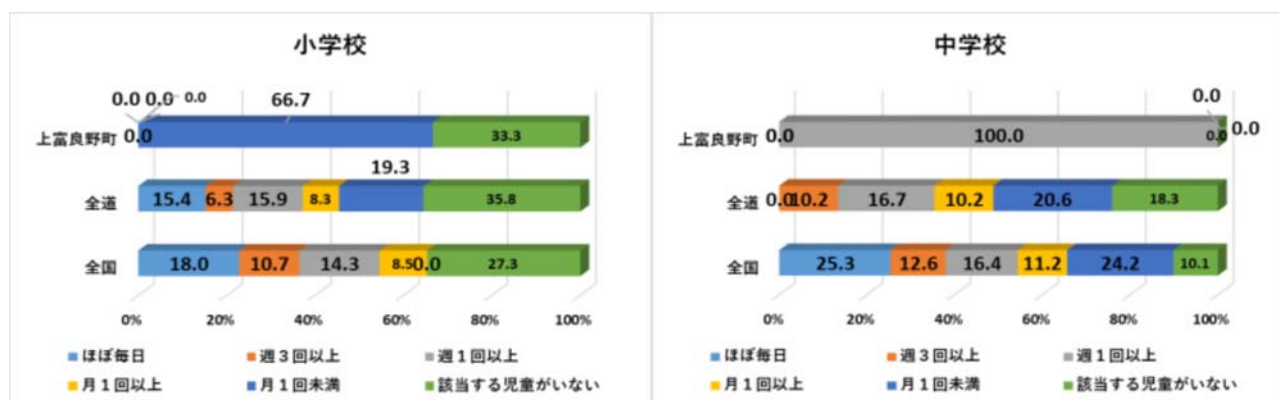
(9) 英語の授業以外にも児童生徒に英語にふれる機会を設定している



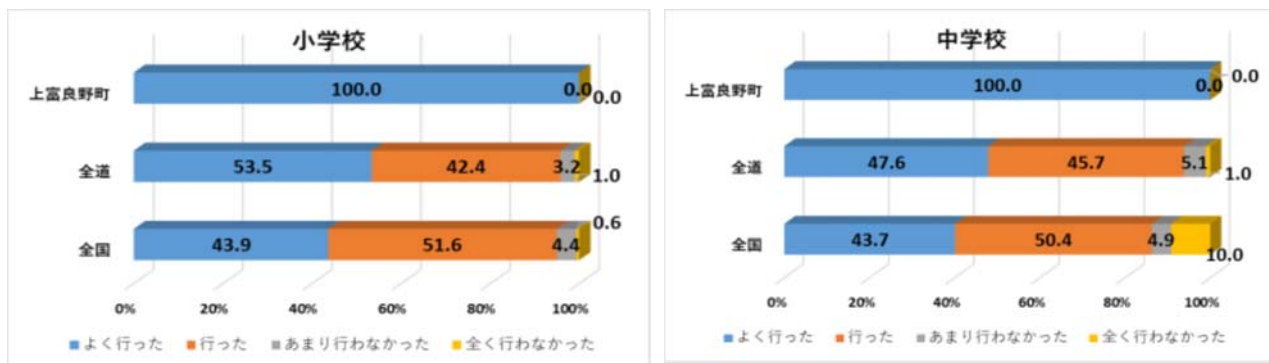
(10) ICT 機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行いましたか



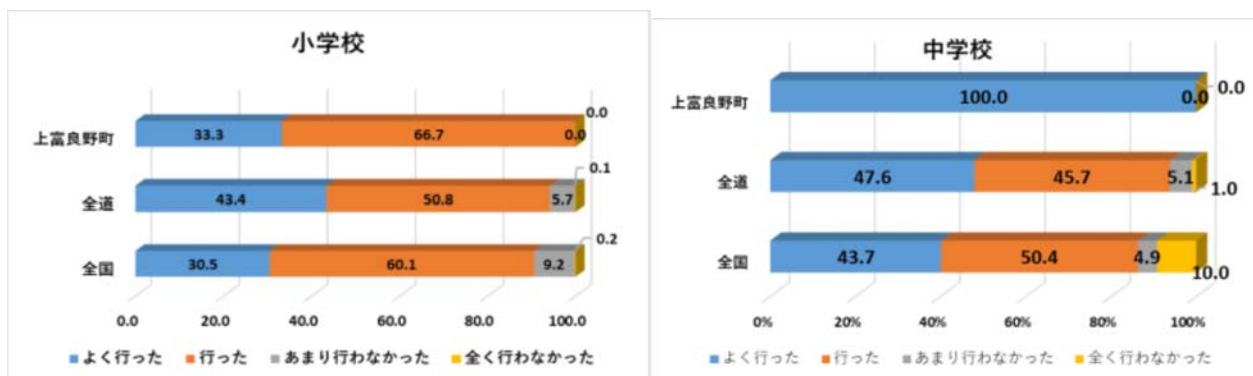
(11) PC・タブレット等の ICT 機器について、不登校児童生徒の学習活動の支援として、どの程度活用していますか



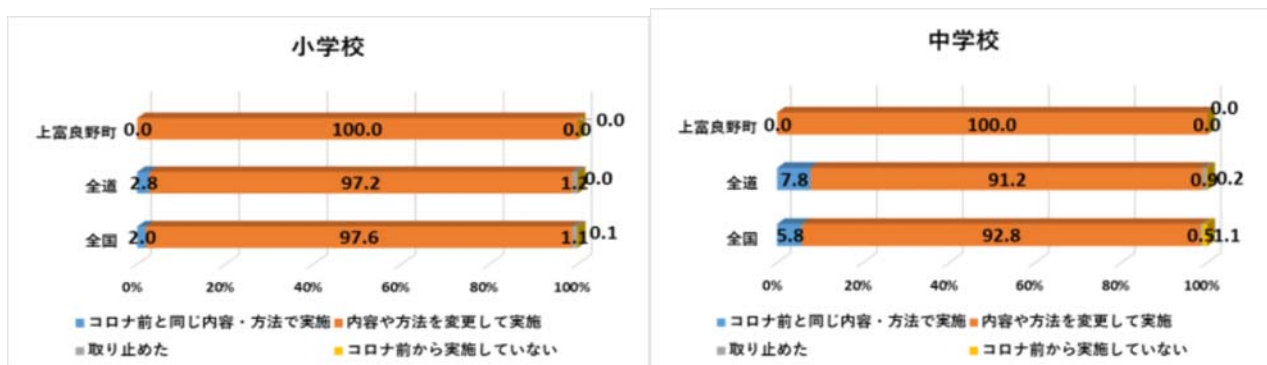
(12) 特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導の工夫（板書、説明、教材の工夫等）を行っていますか



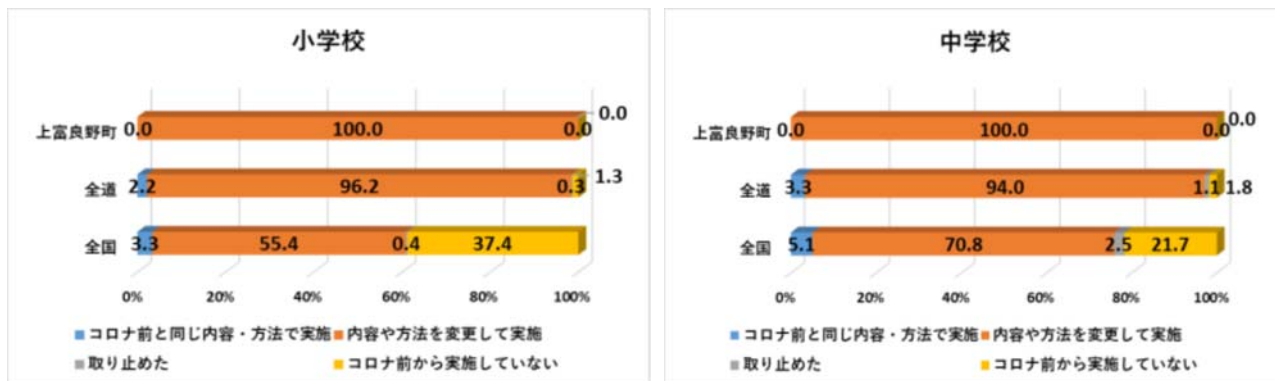
(13) 家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法の具体例等を挙げ教えている



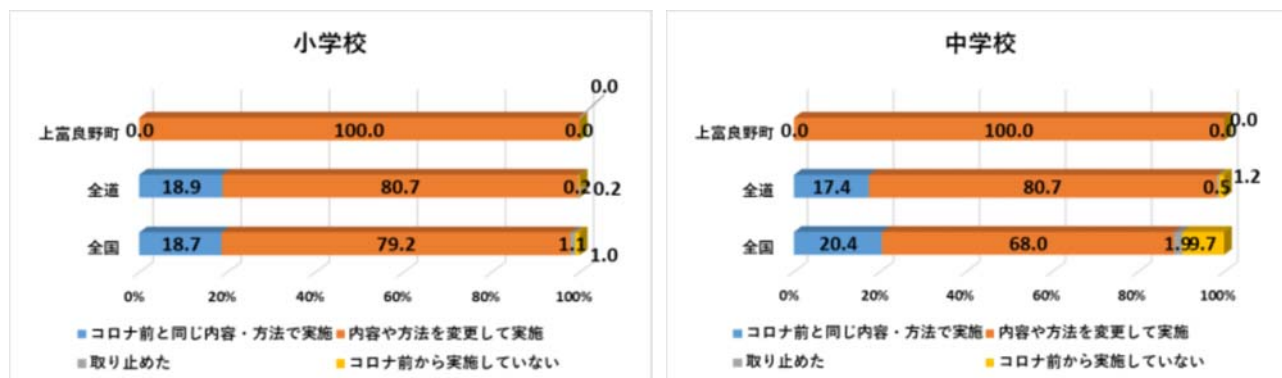
(14) 前年度に、運動会・競技会・球技会をどのように実施しましたか



(15) 前年度に、学芸会・学校祭をどのように実施しましたか



(16) 前年度に、集団宿泊活動（修学旅行も含む）をどのように実施しましたか



- 小・中学校ともに、授業中は、集中し、落ち着いて学習に取り組まれている。
- 小・中学校ともに児童生徒の良さや可能性を見つけ評価する共感的な指導を通し、自己肯定感を高めようとしている。児童生徒質問では、「自己肯定感」は、高くなっている。
- ICT 機器等を活用しての校務の効率化（業務の軽減）の地理は、小・中学校いずれも進められているが、全国でも小・中学校ともに95%を超える学校で取り組まれている。
- 小・中学校ともに、PDCA サイクルが確立され、様々なデータ等を基に、教育課程の編成・実施・評価・改善がなされている。
- 学級や学校をよりよくするための話し合い（学級活動）では、自分と違った意見などからもその良さを見いだし、合意形成していくような指導がなされている。
- 「特別の教科 道徳」において、課題を自分事として捉えて考え、話し合うことを重視し、「議論する道徳」にむけた授業改善が進められている。
- 小・中学校ともに、児童生徒が、課題解決に向けて、自分で考え、主体的に取り組むことができる指導がなされている。
- 算数の指導においては、全国同様に、「公式のきまりや計算の仕方等」のわけを説明できるように、小・中学校ともによく行われている。
- 英語の授業以外にも英語に触れる機会の設定については、多くても月1回程度、もしくはカリキュラム上、設定することが厳しい状況である。
- 「ICT 機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行われているか」については、全国では小・中学校ともに、「ほぼ毎日」が、60%を超えている。本町においても、学習内容によって「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と活用頻度が高くなってきている。
- 不登校の児童生徒の学習活動の支援として、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度活用しているかについては、小学校より中学校のほうが活用頻度は高く、このことは全国でも同様の傾向である。
- 小・中学校ともに、特別支援教育について、共通理解を図りながら、児童生徒の特性に応じた指導の工夫が進められている。
- 家庭学習の取組としては、小・中学校ともに児童生徒に家庭での学習方法の具体例を示しながら進められている。
- 昨年（令和4年）度の「運動会・体育大会」「学芸会・学校祭」「宿泊研修や修学旅行」の実施状況は、小・中学校ともに「内容や方法を変更して実施した」という状況であった。このことは、全国も同様の傾向となっている。

III 現状と今後の取組

- 1 小学校は、国語、算数ともに全国平均をやや下回りました。国語では、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」に成果が見られるが、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」に課題が見られました。

算数では、「伴って変わる二つの数量について、表から変化の情報を読み取り、表の知りたい数を求める」に成果が見られましたが、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に、面積の大小を判断し、その理由を記述する」に課題が見られました。

中学校は、国語が全国平均をやや下回り、数学・英語では、全国平均を下回りました。

国語では、「事象や行為、心情を表す語句についての理解」で成果が見られましたが、「文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える」で課題が見られました。

数学では、「問題場面における考察の対象を明確に捉える」で成果が見られましたが、「空間における平面の決定条件」で課題が見られました。

英語では、「情報を正確に聞き取ることができる」で成果が見られましたが、「日常的な話題について考えを整理し、まとまりのある文章を書く」で課題が見られました。

、 小学校では、国語・算数ともに、全国に比べると、下位グループが少なくなり、中グループの割合が、全国よりも多くなっている。

中学校では、国語・数学は、全国に比べると、下位・中位グループが多くなっていて、英語は、国語・数学と比較しても中位グループが多く、上位グループが少なくなっている。

「確かな学力育成プラン」を見直し、授業内容の精選、個別や全体などの指導方法の工夫改善など、児童生徒の実態に即した様々な取組や小中学校の連携を着実に実施していく必要がある。

- 2 基本的生活習慣が身についている児童生徒が多い。平日の家庭での学習時間が1時間以上の児童生徒が、小学校では57.2%（全国57.1%）、中学校では38.9%（65.8%）となっている。

「平日、1日に読書をする時間」は、小学校・中学校ともに、10分～30分が多い。また、「普段、読書を全くしない児童生徒」は、小学校32.4%（全国26.4%）、中学校40.3%（全国34.3%）と小・中学校ともに全国よりも多くなっていて、3割～4割の児童生徒が、家では本に全く触れられていない状況である。

生活リズムチェックシート等での「家読時間の設定」による読書の促進を図る必要がある。

- 3 「将来にむけての夢や目標をもつこと」について、小学校では91.7%（全国91.6%）、中学校では61.8%（全国66.3%）と小学校では全国を若干上回り、中学校では全国を下回った。

職場体験学習の充実をはじめ、キャリア形成をめざすキャリア教育の工夫が必要である

- 4 「学校に行くのが楽しい」と回答する児童生徒について、小学校は、88.1%（全国85.3%）、中学校は、84.7%（全国80.0%）となり、小学校・中学校で全国を上回った。
「学ぶことや学校生活が楽しい」と児童生徒が実感できる体験的な活動をより一層工夫していく必要がある。

- 3 PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したかについて、週1回以上と回答した児童生徒の割合が、小学校では、100.0%（全国99.0%）、中学校では、100.0%（全国97.7%）となっており、全国同様、本町においても、普段の授業で、PC・タブレットの活用が促進されている。

また、「タブレットを家へ持ち帰って学習に活用している」ことについては、本町においては、学年閉鎖や学級閉鎖等の非常時のみの対応となっているが、「毎日持ち帰っている」「時々持ち帰っている」の中学校の割合では、全道75.2%、全国76.9%となっており、家庭への持ち帰りによる活用が促進されている。

今後、上富良野町ICT推進委員会と各学校の連携を通しながら、活用促進を図る必要がある。

- 4 授業中でのPC・タブレット端末などのICT機器を活用する場面について、「①自分で調べる場面」「②自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「③先生とやりとりする場面」「④だちと意見交換・交流する場面」で比較すると、全国の傾向として、小学校・中学校ともに①③②④の順で割合が高くなっている。

本町においても「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学習内容や活用のねらいに応じて、各場面での効果的な活用を図っていく必要がある。

- 7 不登校の児童生徒の学習活動の支援として、PC・タブレット等のICTの活用状況は、小学校・中学校ともに、全国同様に対応を進めている。今後もいかなる状況下においても、児童生徒の学びが確実に保障できる体制づくりを推進していく必要がある。

- 8 コロナ3年目となった昨年度（令和4年度）での「運動会・体育大会」「学芸会・学校祭」「集団宿泊活動（宿泊研修・修学旅行等）」の実施状況については、全国の傾向と同様に、小学校・中学校ともに、内容や方法を変更して実施できた状況であった。児童生徒の学校生活の充実感、成長にむけた重要性等について、改めて認識しながら、今後も状況を鑑みつつ、学校行事の在り方を検討し推進していく必要がある。